

(別紙) 令和8年度全国学力・学習状況調査の結果

学 校 名		長崎県立佐世保北中学校
生 徒 数		119名
各 教 科 の 状 況		
国語	概 況	平均正答率は 84.0% (県平均 63%・全国平均 63.9%) であった。「知識・技能」の正答率は 83.9% (県平均 62.7%・全国平均 64.2%)、「思考力・判断力・表現力」の正答率は 84.6% (県平均 64%・全国平均 63.7%) であった。正答率が低い問題は、言葉の特徴や使い方に関する事項における「語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈上の意味を捉えることができるかどうかをみる」問題であり、正答率は 49.1% (県平均 34.8%・全国平均 35.2%) と課題がみられる。今後は、語句の辞書的な意味を踏まえて文脈上の意味を捉えることに加え、語句の文脈上の意味を踏まえながら本文の内容を正確に理解する力を育成する必要がある。
	改善策	
数学	概 況	平均正答率は 85.0% (県平均 56.0%) であった。「知識・技能」の正答率は 87.6% (県平均 61.2%)、「思考力・判断力・表現力」の正答率は 78.1% (県平均 39.0%) であった。特に 7(1)8(1)は、正答率が高く、表やグラフから必要な情報を読み取ること、具体的な事象において考察の対象となる角を的確に捉えることができていた。その一方、9(1)(3)は他の問題に比べて正答率が低く、累積度数の意味を理解できていないため、基本事項の定着を図りたい。また、データの傾向を的確に捉え、自らの考えを論述する力を高めていく必要がある。
	改善策	
英語	概 況	平均正答率は 84.9% (県平均 45.5%) であった。知識・技能を問う問題の正答率は 87.3% (県平均 44.7%)、思考力・判断力・表現力を問う問題の正答率は 83.9% (県平均 45.8%) であった。物語の概要を読み取る問題の正答率は 70.3% (県平均 44.5%)、社会的な話題について考えや理由を書く問題の正答率は 71.4% (県平均 26.0%) であり、情報量の多い題材の概要や要点を捉える問題が他の問題と比較して低い数値となった。今後は、比較的長い文章に触れる機会を増やし、自分の意見を表現する力を育成していく必要がある。
	改善策	
質 問 調 査 の 状 況		「学校に行くのは楽しいと思いますか」という質問に、「思う、どちらかと言えば思う」と答えた生徒の割合は91.0% (県平均86.0%) であり、多くの生徒が学校生活に前向きな姿勢を示している。「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」という質問に、1時間以上と答えた生徒の割合は75.9%で県平均49.6%を上回ってはいるが、2時間以上と答えた生徒となると、47.3%と大きく下がっている。学習の量と質の向上を図る指導を進め、高校でのより高度な学習内容の理解へとつなげたい。

(別紙) 令和8年度全国学力・学習状況調査の結果

学 校 名		長崎県立長崎東中学校
生 徒 数		119名
各 教 科 の 状 況		
国語	概 況	平均正答率は 83 パーセントであり、全国・県の正答率を大きく上回っている。知識及び技能と思考力、判断力、表現力等の両領域でバランスよく得点できていた。一方で、問題3ーや4二など、知識及び技能における「言葉の特徴や使い方に関する事項」の正答率が、他の設問に比べると低かった。今後の改善策として、既習事項について、単元の学習や言語活動と関連付けながら繰り返し確認・活用する機会を設け、知識の定着を図るとともに、語句や漢字の使い分けなどを実際の文章や言語活動の中で捉えさせ、言葉の特徴や使い方についての理解を深める学習に取り組んでいく。
	改善策	
数学	概 況	平均正答率は88%と全国・県の正答率を上回っている。「図形」と「データの活用」において、他の領域に比べると正答率が低かった。図形分野では、証明する事柄における仮定を見出す力が、データの活用分野では、データの傾向を的確に捉え、説明する力が不足している。今後は、様々な図形の証明問題に取り組ませることや、データの読み取り問題における表現をする機会を増やすことを意識し、改善できるように努めたい。
	改善策	
英語	概 況	正答率は、全国・県の正答率を大きく上回っている。読み取り、聞き取りの問題が比較的高いのに対して、物語文における登場人物の気持ちの変化を読み取る問題と、インターネットの使用に関して読んだことについて、考えとその理由を書く問題、短い文章を読み、その概要を英文で読み取る問題も他の領域と比べて正答率が低い。改善策として、長めの文章を初見で読ませ要約をさせる、自分の考えを述べたり書かせたりするアウトプットの機会を増やしていく。
	改善策	
質 問 調 査 の 状 況		質問 12「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」に対して「当然である」と答えた生徒は 68.7%で、昨年度と同値であり、やはり全国・県を下回っている。社会の多様性を認識し、他者への理解・配慮ができるような指導を根気強く続けていかなければならない。 質問20「2年生の時に受けた授業で、PC・タブレット機器などのICT機器を、どの程度利用したか」に対し、「1.ほぼ毎日(1日に複数の授業で使用)」は0%、「2.ほぼ毎日(1日1回程度)」が13.9%と、県・全国が「1」「2」合算して 50%前後であったことを鑑みると、低い数値となっている。本校では、各教科において ICT 使用が目的化しておらず、適切な場面を設定して使用しているためと考えられる。

学 校 名		長崎県立諫早高等学校附属中学校
生 徒 数		118名
各 教 科 の 状 況		
国語	概 況 改善策	全体的にバランスがとれ、平均正答率は85.0%と、昨年の75.0%から改善した。その中で記述式の正答率が76.8%と、昨年の53.0%から改善した。授業の中での、表現の中に含まれる深い意味を話し合いによって深めていき、それを文章化したものを提出させるという指導の効果が出てきているのではないかと。今後も継続して深めていく。
数学	概 況 改善策	平均正答率は90.6%であった。領域別では、3領域で平均正答率が90%を超えたが、図形の領域では平均正答率85.4%と若干苦手としている。図形の中で等しい辺や角を見出し、その根拠を挙げることにについて、定着が不十分であるため、知識・技能の定着はもちろん、それを用いて証明するなど、表現・説明の学習の機会を作りたい。問題形式別では、選択式(85.3%)、短答式(93.4%)、記述式(87.3%)と記述式の平均正答率が他形式の問題と比べても遜色がなく、無答率が0~3.4%であり、これは数学だけでなく、学校教育全体で表現力・説明する力の向上に努めてきた成果が出たものと考え。今後も継続して指導を行っていきたい。
英語	概 況 改善策	3技能の平均正答率は84.1%であった。全体的にバランスよく力が身に付いており、基礎的・基本的な英語の知識や技能の定着が見られた。全体として良好な結果が見られるものの、概要を読み取る問題については、他の領域と比較してやや正答率が低い傾向が見られた。今後は、英文全体の流れや要点を捉える活動を充実させ、必要な情報を整理しながら内容を理解する力の向上に重点的に取り組んでいく。また、「話すこと」の領域の平均正答率は、73.2%の正答率であった。現在、自分の考えを英語で話す活動を毎時間確保していることが、生徒の発話への抵抗感の軽減や表現力の向上につながっていると考えられる。一方で、与えられた情報を基に即興で自分の考えや理由を詳しく伝えることには課題が見られた。県から指定していただいている生成AIアプリを活用しながら対話活動やスピーチ活動をさらに充実させ、自分の考えを根拠とともに表現する力の向上を図っていく。
質 問 調 査 の 状 況		PC・タブレットなどのICT機器を使うことが得意と感じている生徒が全国・県の平均よりも多い。【質問36-1・4、48】今後も、毎日の学習・生活の記録や授業の発表などでICT機器を有効に活用していく。「自分と違う意見について考えるのは楽しい」や「周囲の考えを大切にしてお互い協力して課題の解決に取り組んでいる」と感じている生徒が全国・県の平均よりも高く、協働学習のおもしろさややりがいを実感できていることがわかる。【質問16、46】平日の勉強時間が全国・県の平均よりも低い点は、改善の必要がある。【質問23】